Kyoto Hollywood News
京都ハリウッド通信

30000回斬られて ハリウッド・デビュー トム・クルーズ「ラストサムライ」

共演は渡辺謙、真田広之、小雪ら日本の実力派演技陣

©2003 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved

斬られ役からハリウッド・デビューを果たした福本清三。自伝「どこかで誰かが見ていてくれる」が発売中

©2003 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved

オールグレン大尉（トム・クルーズ）は日本のサムライに共鳴し、戦う

©2003 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved

トム・クルーズ主演「ラストサムライ」は京都・姫路とアメリカで撮影された、ハリウッドが世界に発信するサムライ・スピリットを描いた映画だ。日本側からは渡辺謙、真田広之、小雪らの他、注目すべき俳優が出演している。その名は福本清三。その名は知らなくとも顔を見ればピンと来るはず。そう、福本は東映京都撮影所で斬られ役として59年にデビュー以来、通算3000回という膨大な回数を主役に斬られ続けて来たのだ。その福本が昨年引退の直前にハリウッド・デビューという、京都の下積みの末のアメリカン・ドリームという快挙を成し遂げた。監督は「恋におちたシェイクスピア」でアカデミー賞に輝いたエドワード・ズウィック。明治の初め、西洋化を推進する日本政府に請われて日本政府軍に西洋式の戦術を教えるために来日したオールグレン大尉（トム・クルーズ）は、南北戦争の英雄でありながら、戦後は目的を失ってしまい、生きる屍のようになっていたが、異国の地の日本でサムライたちに出会い、滅びると分かっているものにあえて殉じようとする彼らに同じ魂を見出し、共に命を賭けて戦う事になるという物語。まさしく本作はハリウッドが日本のサムライ・スピリットをテーマに真っ正面から描く初めての映画。トム・クルーズは「サムライの持つ優雅さと美しさ、強さと情、正しい事には命を投げ出す潔さや忠義を尽くす心に私はずっと強くひかれてきました」と語り「この映画に出られた事は私の誇りです」と断言している程の打ち込みよう。12月6日、日米同時公開。

モーニング娘。藤本美貴か「恥ずかしい格好」で撮影？ テレビ東京「竜馬がいく」

おでこが恥ずかしいモーニング娘。藤本美貴。04年1月2日放映

テレビ東京開局40周年記念の新春ワイド時代劇「竜馬がいく」の主人公・坂本竜馬を演じる市川染五郎が去る9月30日、松竹京都映画撮影所で初収録。この日は竜馬が剣術修業のため千葉真吉道場を訪れるシーンから撮影が始められた。前日は緊張のあまり眠れなかったと語る染五郎だったが、朝9時から深夜1時半に及んだ撮影に「のめり込んでいける」と手応えを感じた様子。「竜馬の人柄を表すには土佐弁という言葉がないと出来ないものだと思うので、先生に教えてもらいながら何とかやっています」と慣れない土佐弁と必死に格闘。坂本春猪役で出演のモーニング娘。藤本美貴は「おでこが恥ずかしくて染五郎さんと顔を合わせられない」と照れ照れ。一方の染五郎は「一回り歳が違う方と仕事をするようになったかと思うと、ちょっと嫌な感じ」と苦笑。

手応えを感じた初収録。左から藤田まこと、的場浩司、市川染五郎、前田愛

通算75回 視聴率男が演じる「新・赤かぶ検事奮戦記」

こちらはシリーズ第6弾「新・京都迷宮案内」

その風貌は「ごく普通のおじさん」の橋爪功だが、実は出演作品がことごとく高視聴率を獲得する視聴率男、やはり普通のおじさん的風貌の藤田まことも視聴率男で、主演する「必殺」や「はぐれ刑事」は軒並み20～30％の視聴率を記録し、番組も約20年のロングラン。この12月6日に「土曜ワイド劇場」（朝日放送）で夜9時より放映される橋爪主演「赤かぶ検事」シリーズも遂に15回に達した。「赤かぶ」は松竹京都で撮影されており、やはり橋爪主演で毎週木曜夜8時より放映中の「新・京都迷宮案内」（テレビ朝日）も高視聴率により今回のシリーズでパート6を数える。「赤かぶ」では検事、「迷宮」では新聞記者と、真っ向から対立する役を演じながら、共通するのは庶民性、将来も庶民性を武器にホノボノとしたおじいちゃんとして高視聴率を獲得？

通算15回「新・赤かぶ検事奮戦記」右から橋爪功、渡辺哲、石倉三郎

通を唸らせる新しい時代劇ヒロイン登場「夜桜お染」

平成の時代劇女優・若村麻由美。共演は内藤剛志、片岡愛之助、遠藤憲一、火野正平、古谷一行、ゲストに松平健など

今、時代劇をやらせたら当代一、粋で色っぽい若村麻由美がその名も艶やかな「夜桜お染」という芸人。実は隠密という謎めいた役を魅力的に演じるフジテレビ火曜時代劇「夜桜お染」（火曜夜8時放映中）は、主人公のお染（若村）が毎回華麗な衣装で七変化し、芸者、花魁、女博徒、女ねずみ小僧などに変身して爽快な立ち回りで小粋に悪党をこらしめるという痛快時代劇。若村は撮影のために猛特訓を積み、立ち回りはもちろん、三味線、踊りの舞曲と言われる娘道成寺や滝夜叉姫に挑み、磨き抜いた芸で視聴者を魅了。更には難しい江戸の伝統芸能・太神楽（だいかぐら・江戸の曲芸）にも初挑戦。若村こそ平成の時代劇を担う女優と言えるだろう。

今月の言葉

本年は映画1本にドラマ10本の脚本・監督という、年間演出自己記録を更新。正直6月に「新怪談残虐非道・女刑事と裸体解剖鬼」を撮影した後は、自分的には完全燃焼をしたつもりだったので次回作の構想は来年に入ってからかなぁ。などと思っていた矢先に「魔界少女拳・来夢（ライム）」全10話の製作に。「新怪談」でアイディアの引き出しは全部開けて空っぽだと思っていたが、たった1カ月というタイトなスケジュールで脚本をアップ。振り返って人間追い詰まればなんとかなるという事を実感した一年だった。

2003年12月1日　山田誠二

責任編集人　山田誠二
1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデュース、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。

トピックス

新京極映画祭

去る10月～11月にかけて、新京極商店街にて「第2回新京極映画祭」が催された。まず10月12日にオープニングイベントとして映画美術監督・西岡善信氏と京都新聞文化部・井上理砂子記者とのトークライブ「銀幕の面影」を新京極六角の総本山誓願寺にて開催。旧大映京都撮影所時代から、勝新太郎、市川雷蔵ら大スターと共に数々の名作に携わり、現在も「剣法度」「たそがれ清兵衛」でその手腕を賞う世界的な映画美術デザイナーの西岡氏による数々の秘話は、単に貴重な映画史の証言というだけでなく、古き良き時代の活動屋の悲喜交々のエピソード自体、映画以上に映画らしくて面白い。トーク前には京都室内オーケストラが弦楽四重奏によるスクリーンミュージックを奏でて会場を盛り上げた。

26日には元・立誠小学校にて「脚本」看板と銀幕板・まちを彩った銀幕絵巻」と題して懐かしい映画の看板を展示。11月21日には「撮影所のつくりかた」ここが撮影所！」と題して映画監督の澤井信一郎氏、熊切和嘉氏、山下敦弘氏のトークにより、撮影所という映画製作の現場を検証。25日にはMOVIX京都にてかの名作「ウエストサイド物語」が記念上映された。